



災害公営
住宅
整備事業

被災市街地復興土地区画整理事業

新しいまちづくり計画では、防潮堤を建設するとともに、盛土したところに工業・商業エリアと住宅エリアを分離させ配置することで、安全で快適な暮らしを送れるよう計画しています。

南気仙沼地区
提供：一般社団法人東北地域づくり協会 令和2年10月



津波により火災発生



被災直後の状況

提供：一般社団法人東北地域づくり協会



鹿折地区一区画整理事業・竣工式
令和元年9月



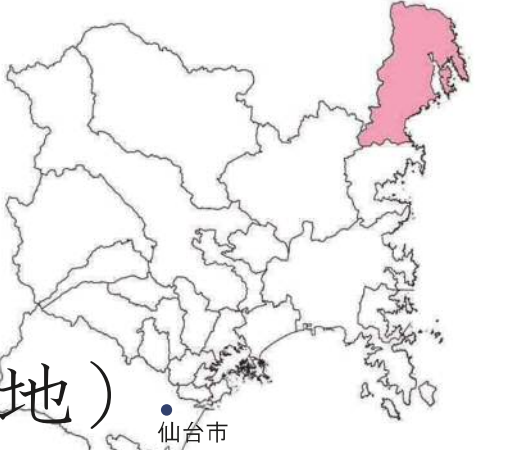
【従前の町並み】
気仙沼港周辺に市街地部が集中していた南気仙沼地区では工場・商業・住宅等が混在していました。

提供：一般社団法人東北地域づくり協会 平成16年5月



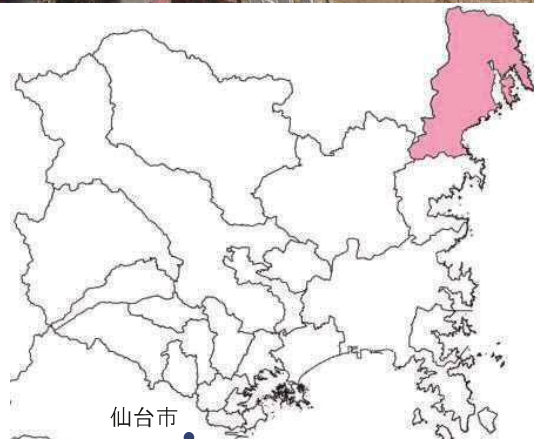
生鮮カツオの水揚げは、24年連続日本一となっています。

カツオ水揚げの様子



仙台市

気仙沼市 (市街地)



気仙沼市(半島部)



安心して暮らし続けられるまちづくり

移転先の高台居住地

元の中心市街地はなりわいの場として再生します。

三陸地方は地震による津波が周期的に襲ってくる地域であるといえます。明治以降の100年余りの間に、明治三陸津波、昭和三陸津波、チリ地震津波など多数の死者や家屋の損壊が出るなど大きな被害を受けてきました。南三陸町は、今回の被災の経験を活かし、どのような災害に遭遇しても命が守られ、安全で安心して暮らし続けることができる町、集落及び地域社会を創造的に復興させます。



志津川地区
令和2年10月

提供：一般社団法人東北地域づくり協会



被災前の様子
平成13年5月



被災直後の様子
平成23年3月
提供：一般社団法人東北地域づくり協会



志津川中心部の南三陸町防災対策庁舎。3階建ての建物の屋上を2mも越える津波が押し寄せました。現在は、県が震災遺構として20年間（2031年まで）維持管理し、町が周辺を復興記念公園として整備することとしています。

津波浸水高さ
庁舎の高さ1.2m

H=2m



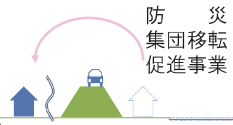
仙台市

南三陸町

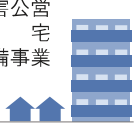
被災市街地復興土地区画整理事業



防災
集団移転
促進事業



災害公営
住宅
整備事業



市街地の安全の確保を第一に、多重防御による防災に強いまちづくりを目指します。
また、被災地最大規模となる蛇田地区を代表に産業系合わせ15地区の区画整理事業により、市民の不安を解消し、これまでの暮らしを取り戻します。

石巻南浜津波復興祈念公園
令和3年7月

活気のある新たなまちづくり



旧北上川の河口部では河川堤防と一体となったまちづくりが行われました。



写真提供：石巻市

新蛇田地区
平成30年9月



被災直後の門脇地区
平成23年3月

石巻市(市街地)



仙台市



居住と漁港の安全を確保し、地域拠点として、行政施設や医療福祉、教育施設を集約して整備するとともに、水産業の速やかな復旧と観光事業化を進め、恵まれた自然や歴史的資源を活かした地域づくりを目指します。

雄勝地区
令和3年3月



約600年の歴史を持つ雄勝硯は、全国有数の生産量を誇ります。また、雄勝石の薄く割れる性質を生かした、全国でも珍しい共蓋付硯もあります。



石巻市 (半島部)



提供：一般社団法人東北地域づくり協会 平成24年11月



提供：一般社団法人東北地域づくり協会 平成15年8月



100年先を 見据えたまちづくり



「住み残る」「住み戻る」「住み来る」、「選択されるまち」女川へ。
高台に移転しても、都市機能が集約されたコンパクトシティを目指す。

中心部
令和2年10月
提供：一般社団法人東北地域づくり協会



ハマテラスオープン
平成28年12月



提供：一般社団法人東北地域づくり協会 震災後（平成23年3月）



仙台市

女川町



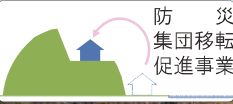
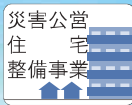
提供：一般社団法人東北地域づくり協会 震災前（平成18年6月）

JR 仙石線と 高台移転した 野蒜地区



野蒜地区は、特別名勝「松島」の一角を占める風光明媚な景観を保全しつつ、住民の安全・安心を守るために、被災した住宅をはじめ小中学校や郵便局、市民センター等の公共施設、JR仙石線すべてを新市街地として形成するため背後高台丘陵地へ移転し、再建をはたす地区です。

令和2年3月 野蒜地区
提供：アジア航測（株）



野蒜地区では宅地の引渡が全地区完了し、新たな生活がスタートしています。平成29年8月までに災害公営住宅も完成しました。



あの日を忘れず ともに未来へ
～東松島一心～

東松島市

